

三愛会 創立70周年 記念



三愛会

創立70周年に

寄せて

三愛会常任理事

三愛会創立70周年に際し、三愛会・常任理事の皆さまからお言葉をいただきました。
創業者・市村清について、「三愛精神」について、そして、三愛会やご自身の会社の今後についてなど、メッセージに込められたお気持ちやご期待を大切にしていきたいと思えます。

70年を経て さらに価値を増す言葉

株式会社リコー
代表取締役社長執行役員

三浦 善司



三愛会は本年創立70周年を迎えました。私どもリコーグループも80周年を迎え、グローバルでの事業展開や社会課題の解決にさらなる力を注いでいます。

こうした活動の原点になっているのは言うまでもなく、創業者・市村清の創業の精神「三愛精神」です。

先般、弊社グループの海外オフィスを訪問したところ、創業者の写真と三愛精神が大きく掲げられていました。三愛精神に込められた簡潔で力強いメッセージが、海外の人たちの心をも捉えているのです。私は、70年前にうたわれた言葉が、時代を超えて、ますますその価値を高めていると感じました。

三愛会70周年、リコー80周年というターニングポイントを迎えた今こそ、私たちは、創業者が説いた三愛精神に立ち返り、次の一步を踏み出していくことが必要だと考えています。

「三愛精神」は リコー三愛グループの宝

三愛石油株式会社
代表取締役社長

金田 準



当社は三愛会創立から6年後の1952（昭和27）年に創業し、羽田空港での航空機給油事業に着手しました。先が見えず混沌とした時代、この事業の先行きを不安視する声もあるなかで、創業者・市村清は「羽田空港の燃料取扱数量は、やがて今の10倍になる」と信じ、事業化を推進しました。この時、創業者が提案し日本で初めて採用されたハイドラントシステムは、今では国内外の主要空港で採用されています。当社の航空機給油事業は、グループのさまざまな事業のなかでも、創業者が先見性、発想力、決断力などを遺憾なく発揮し成功に導いたものの一つだと考えています。

三愛会は、その活動が時代とともに変わっても、リコー三愛グループの宝とも言える創業者の経営理念「三愛精神」や言動、そしてその足跡を次世代へと伝えるとともに、グループ各社の繁栄の一助となる重要な役割を担っています。当社としても、グループの一員としてその活動を支えてまいります。

経営の根本は「愛」

リコーエレメックス株式会社
代表取締役社長執行役員

鈴木 将嗣



当社は三愛会の創立からさかのぼること8年、1938（昭和13）年に高野精密工業として創立しました。62（昭和37）年にリコー時計と改称し、リコーグループの仲間入りを果たしました。この時、社長に就いたのが市村清で、私たちはこの年を第2の創業と捉えております。

私が当社に入社した80（昭和55）年、市村清はすでに他界されており、直接お会いすることはできませんでした。その生涯をつづった『茨と虹と』を読むことで、市村清の人となりに触れたように感じたことを覚えています。また、最近改めて読み直したところ、経営の卓越した手法だけでなく、経営の根本は「愛」であることを再認識させられました。

三愛会は市村清が掲げた創業の精神「三愛精神」のもと、リコー三愛グループ各社を強固に結びつけ、70年にわたり結束力を高める原動力としての役割を担ってきました。三愛精神の次代への継承と、グループのさらなる発展を目指す三愛会の活動に、当社も微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

「三愛精神」の継承

コカ・コーラウエスト株式会社
代表取締役社長

吉松 民雄



1960（昭和35）年に日米飲料株式会社として設立された当社は、62（昭和37）年に創業者・市村清が初代社長に就任し、日本コカ・コーラとのボトラー契約を締結、事業を開始しました。

北九州コカ・コーラボトリング、コカ・コーラウエストジャパン等、経営統合を機に社名を変更してきましたが、一貫して「三愛精神」を基本哲学に日本のコカ・コーラシステムの変革を押し進めてまいりました。

過去6社あった西日本のボトラーがコカ・コーラウエストグループとして経営統合していくなか、「三愛精神」は、グループ経営の根幹である「企業理念」に引き継がれ、今では「お客さまに支持され、株主さまに理解され、地域社会に愛され、社員が誇れる会社へ」というウエストビジョンのもと事業運営を行っています。

今後この「企業理念」に基づき、コカ・コーラビジネスをより一層成長・発展させるとともに、リコー三愛グループの絆をさらに深めてまいりたいと考えております。

「三愛精神」につながる言葉

リコーリース株式会社
代表取締役社長執行役員

瀬川 大介



私は2016年6月にリコーリースの社長に就任しました。社長就任での所信表明にあたり、社員に向けて「三愛精神」（人を愛し 国を愛し 勤めを愛す）につながる二つの言葉を話しました。一つ目は「随所に主となれ」。私は会社や組織は人と人の結びつきで出来ていると考えています。ひとりひとりが自分をしっかり持ち、自ら働きかけることでコミュニケーションやチームワークがよい会社組織を作ると考えています。二つ目は、「明るく・楽しく・一生懸命」。一生懸命に仕事し続けるためには、明るく・楽しくが欠かせないと考えています。

リコーリースは16年の12月で創立40周年という節目を迎えます。一方で、国内のリース市場は成熟し、新たな価値提供が求められています。そのような中、「三愛精神」のもと全社一丸となつて、競合他社に負けないリコーリースらしい価値を創出することで、成長に向けたチャレンジをし、三愛会の次の10年の繁栄に寄与していく所存です。